

日本語文章表現

第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

入江 さやか(岐阜女子大学)



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

【目的】

異なる情報源からの情報を分析し、適切な引用の仕方を選択する方法を学ぶ。直接引用と間接引用の違い、引用時のルールや形式、参考文献の書き方などを理解することが目標である。



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

【学修到達目標】

- 異なる情報源からの情報を分析し、適切な引用方法を選択できるようになる。
- 情報を適切に評価し、その情報が論証にどれほど貢献するかを判断できる。



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

■ 引用の目的

- ✓ 主張がオリジナルかどうかを明確にするため
- ✓ 他者の主張をあたかも自己の主張のように示すことは「剽窃」で、絶対にしてはいけない
- ✓ 他者の考えと、私自身の考えは、明確に区別

※ 孫引き（引用の引用）はしない

最初の引用が正しいとは限らない。

最初の文献を見て、そこから引用する



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

■ 引用のルール

- ✓ 出典を明示する
- ✓ 引用の範囲を明確にする
- ✓ 参考文献に記す



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

■ 直接引用

✓ 「 」を使う引用

- ・ 入江（2012）は、「・・・」と述べている。
- ・ 入江（2012）では、〇〇について、「・・・」と指摘している。

※ページ数を明記する必要がある場合

- ・ 入江（2012: 198）は、・・・
- ・ 入江（2012: 10-12）では、・・・



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

■ 直接引用

✓ ブロック引用（長くなる場合）

石黒（2024:3）は、小論文とレポート・論文には明らかな違いがあり、大学における学びにおいては、小論文を参考にしすぎると次のような弊害があると述べている。

1行空ける

2字
ほ
ど
イ
ン
デ
ント

レポートや論文といった学術的な文章には、深く考えるというプロセスと詳しく調べるというプロセス、この二つのプロセスを経ることが必須です。ところが、小論文にはその大切なプロセスのいずれも経ることが求められていないのです。これが、小論文の弊害です。

レポートや論文を小論文と同一視してしまうと、レポートや論文も短時間で簡単に書けるものという錯覚に陥りがちです。しかし、レポートや論文は、深く考える、および詳しく調べるという手間のかかる面倒くさいプロセスを経て徐々に形を成していくものなのです。

1行空ける



つまり、小論文とレポート・論文は似て非なるものであり、小論文と同じ感覚でレポートを書いてはいけないということがわかる。

第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

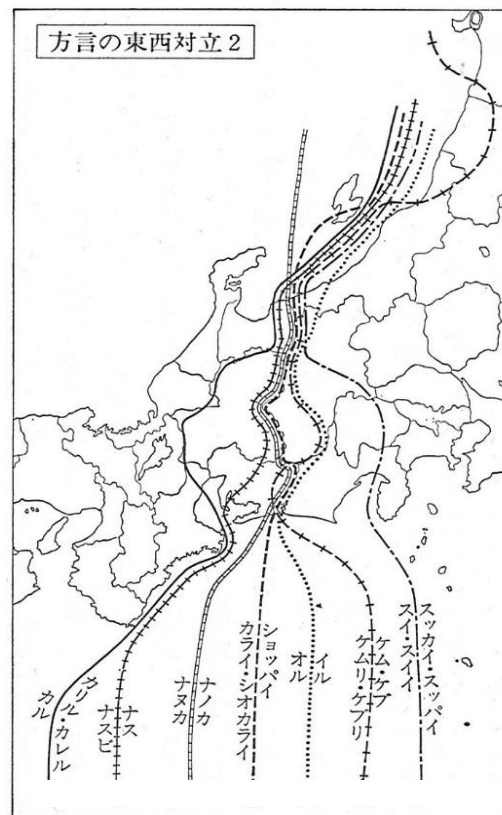
■ 間接引用

- ✓ 自分の言葉で内容を要約する方法。この場合、引用元の文章をそのまま使用しては絶対にいけない。必ず「自分の言葉」で要約する。ただし、引用元の内容と変えてはいけない。
- ・ 入江（2012）によれば、・・・という。
- ・ 入江（2012）では・・・と述べられている。



第14講 「論文の書き方 (3) 引用の仕方」

■ 表や図の引用



(『日本言語地図』から)

図 1 語彙に関する方言の東西対立 (徳川1981)



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

■ 参考文献の書き方

- ✓ 学問分野や雑誌等により種々
- ✓ 指定された書式に従って書くのが重要
- ✓ 以下、日本語学でよく使用される参考文献の書き方について記す



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

■ 参考文献の書き方

- 英語文献をアルファベット順に並べた後、日本語文献を著者の五十音順に、同じ著者の場合は、発表年代順に、同じ著者が第一著者で、第二著者がいる場合、年代順ではなく、単著を先に並べる。
- 同一著者が同じ年に刊行した場合、入江（2024a）、入江（2024b）のように記す。
- 一つの項目が2行以上にまたがる場合は、2行目以降をインデントする。
- 各項には、著（編）者名、発行年、論文名、頁等を記載する。書籍の場合は出版社も記す。



第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

参考文献の書き方例

石井久雄（1990）「『中央公論』1986年の用語」『研究報告集』11、1-40

石黒圭（2024）『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本【新版】』日本実業出版社

入江さやか（2012）「日本語の音素分布・配列に関する歴史的研究」『同志社日本語研究』別刊第1号

金田一春彦（1967）「3.音節・モーラおよび拍」『日本語音韻の研究』58-77、東京堂出版

国語調査委員会（1906）『口語法調査報告書. 上』、『口語法調査報告書. 下』国定教科書共同販売所

徳川宗賢（1981）「第七章 ことばの地図」『日本語の世界8 言葉・西と東』285-379、中央公論社

論文内で引用した文献のみ記す



課題

任意のトピックについて、適切に引用をしながら、論の展開をする。形式を整えたレポートを作成する。



日本語文章表現

第14講 「論文の書き方（3）引用の仕方」

入江 さやか(岐阜女子大学)